

CONTENTS

地域会だより 1

連載：防火建築帯・防災建築街区を巡って 4 2
土屋 和男第 8 回 JIA 東海住宅建築賞 2021
公開審査会報告 4
吉元 学広島工業大学准教授、
建築情報学会常任理事の杉田宗さんのご講演を聞いて。
— 電脳設計論壇 #08 杉田 宗氏 5
宮坂 英司コルゲートハウス「川合健二郎」報告 その 2
「Slowback Life Project」循環する森 6
富田 正行2022 年度 東海支部役員選挙の告示
2022 年度 東海支部愛知地域会役員選挙の告示 7保存情報 第 238 回
データ発掘：会所（閑所） 8
塚本 隆典編集後記 8
鈴木 賢一・鈴木 利明JIA 近畿支部大阪建築部会（樹木と街分科会）
白鳥庭園見学会報告 9
畠山 成好

表紙 「伊賀上野の家」 景観分析

初めて敷地を訪れたときには必ず周辺を歩きまわる。その時、最も大切にしていることは、敷地周辺から聞こえてくる声を感じることである。「伊賀上野の家」の計画で私が感じたのは、建替えが進み、かつて武家屋敷だったまちの風景が崩れつつある中にも残る、塀や屋根瓦で構成された城下町の骨格の存在であった。最初に感じた声を建築にどのように落とし込むか、骨格を見つけていくか、日々試行錯誤を繰り返していきたい。俯瞰的な視点を忘れずに。

地域会だより 今後の予定

- 静岡地域会
・10/7 役員会の開催（WEB 同時開催）
- 愛知地域会
・10/ 毎週金曜日 JIA 大学授業「建築家の仕事」（名古屋市立大学）
・10/22 第 5 回役員会（WEB 併用）
- 岐阜地域会
・10/21 第 6 回役員会
（ハートフルスクエア G 又は ZOOM 会議）
18:00～ハートフルスクエア G2F 大研修室にて
・11/27 JIA の窓：ぎふ「20×20」コミュニケーション
ぺちやくちやナイト企画
- 三重地域会
・10/22 第 5 回役員会、第 4 回例会
・森羅万象匠塾
三重県総合文化センター ※ZOOM 併用

Bulletin Board

書籍紹介

『JIA ゴールデンキューブ賞 2019 / 2020 作品集』発行

JIA ゴールデンキューブ賞 2019 / 2020 の作品集が完成し、皆さんに見ていただくことができるようになりました。公開審査を建築家会館で開催したのは、WHO の新型コロナウィルス検出発表直後の 2020 年の 1 月 25 日でした。コロナ騒動がなければ 1 年前に完成していたはずですが、委員会活動も休止し、編集の相談ができたのは今年の 4 月に入ってからです。協賛いただいた皆様には遅ればせながら感謝申し上げます。審査委員長の高谷先生はじめ委員の元岡、柳川、大村、中川の各先生の丁寧な審査は一読に値するものばかりです。ぜひ手にとっていただき、子どもを対象とする建築活動の現在をご覧になってください。（ゴールデンキューブ賞特別委員会）

■ 1 冊 500 円 JIA 東海支部事務局にて販売

講座案内

名古屋市立大学授業「建築家の仕事」

JIA 愛知・大学特別委員会主催の名古屋市立大学 芸術工学部 2021 年度後期授業「建築家の仕事」が今年もオンラインにて毎週金曜日開催します。JIA 会員も聴講出来るようご配慮頂きました。それぞれの会員が日々取り組んでいる仕事や、学生への未来に向けてのエールなど、普段、会の活動だけでは見えない会員の仕事や取組みを紹介しています。

- 10月1日 「時と人と建築」 浅井 裕雄
建築は人生とどう関わるのか、少し先の未来までを、自邸を通して考える。
- 10月8日 「名古屋を拠点とする設計事務所の仕事と私」
内藤正隆 澤村 喜久夫
建築・都市に対する考え方、仕事との関わり、学生時代から現在に至るまでの経験を伝える。
- 10月15日 「家具と建築」 塩田 有紀 小林 啓伯 小林 久美子
空間や場をつくること、暮らしを支える形などについて家具と建築、双方の視点から考える。
- 10月22日 「経験と建築 時をこえて繋がる建造環境と職務の恒久性と変化」
森 哲哉 近藤 万記子
地形、歴史、文化、見えるもの、見えないものを読み取り、地域性を踏まえた建造環境と多様化する職務の持続性についてお話しします。
- 10月29日 「プロダクトデザイン、クラフトデザインと建築設計」
矢田 義典 矢田 なおみ
ワークショップを通じて、プロダクトやクラフトデザインは建築設計とは違った側面を体験する。
- 各回金曜日 10:40 から 12:10 zoom によるオンライン授業
- 聴講方法 <https://us02web.zoom.us/j/81610207057>
聴講希望者は、各回ごとに鈴木賢一先生へご一報願います。
ken@sda.nagoya-cu.ac.jp まで



森本 雅史 (JIA 三重)
株式会社森本建築事務所

防火建築帯・ 防災建築街区を巡って

4



台湾の先駆例

台湾の亭仔脚

沼津本通防火建築帯が「アーケード」になった発端に、「台湾では日射をさけるため道路の歩道上に建物が出来ている」という旧台湾在住者の発言があったと『戦災復興誌』が伝えていた(8月号参照)。ここで言われている台湾の「歩道」は、亭仔脚(ていしきゃく)または騎楼(チイロウ)と呼ばれるもので、地上階の柱を残して壁面を一律に数メートル後退させ、建物の下を連続的に歩けるようにしたものである。台湾の強い日射と降雨を避けることから発達したと言われるが、研究によれば中国南部やシンガポールなど東南アジアの広範囲に類似のものが見られるという。

台湾の亭仔脚は、清朝時代から普及していたが、日本統治下となった1900(明治33)年に公布された「台湾家屋建築規則」によって、道路沿いの家屋に設置が義務づけられ、市区改正事業による街路の拡張・整備にともない、台湾全土に普及したとされる。

現在、台湾では老街(ラオジエ)と呼ばれる古い建物の残る街が観光地として人気を集めているが、多くの老街で亭仔脚を見ることができる。それは自動車や

雨から守られた歩道であるとともに、街をかたちづくる基本的なデザイン要素となっている。

日本統治時代の街並み

例えば大溪の街では、大正期に市区改正計画によって目抜き通りが拡幅され、それに伴って建築規則に従った亭仔脚付の店舗が並んだ。2-3階建、間口2間程度の小規模な建物に、ファサードを埋め尽くすように装飾を施した街並みが見られる。また、同時期に三峡のような市区改正計画によらない街でも、亭仔脚付の街並みができていった。これらの街では建物は個別であるが、亭仔脚があるために壁面線と軒の高さが揃い、切れ目のない連続的な街並みが形成されている。

日本統治時代につくられた亭仔脚付の建築で最も大規模なものが、台南の末廣町店舗住宅である。1932(昭和7)年、市区改正に伴ってできた大通りの両側(南側約150m 北側約100m)に、RC(一部SRC)造の建築が竣工した。設計は台南州の技師であった梅澤捨次郎。注目すべきは、これが一体の共同建築であったことである。梅澤によれば、22名の施主による計27戸で、表側は3階を最低

とした。各戸は間口も奥行もプランも全て異なる。さらに、一部は5,6階まであり、南側東端には林百貨店がそびえていた。

防火建築帯の先駆

末廣町店舗住宅は戦後日本で実現した防火建築帯の先駆的な事例にほかならない。両者を比較すると、次のような共通点が指摘できる。1) RC共同建築である。2) 沿道に切れ目なく続き防火帯を形成している。3) 戦後の防火帯でその性能を満たすために要求されたのと同じ3階建である。4) 1階手前を店舗とし1階奥ないし2階以上は住居であった。5) 所有区画は1階店舗の間口が縦方向に延び隣接区画とは境界壁で区画される。6) 間口は地上の土地区画に応じて不揃いになる。

一方、次のような試みが見られる。1) 角地の百貨店と一体的に計画、デザインされている。2) 道路の両側のデザインを統一させている。3) 不揃いな間口にもかかわらず、各階の水平線や頂部の意匠を揃えることで統一感が形成されている。4) 地上の亭仔脚の幅は3m程度あり、大通り沿いの歩道として十分な広さを備えている。5) 亭仔脚からはところどころ



大溪 幅2m程の亭仔脚



三峡 亭仔脚の柱廊が街並みを決定している



台南 末廣町店舗住宅 角地に建つ林百貨店



末廣町店舗住宅
林百貨店から続く共同建築



末廣町店舗住宅
現在でも一体の建築であることがわかる



末廣町店舗住宅
林百貨店前の亭仔脚 近年リノベーションされた

に奥に抜ける路地が用意され、共同建築としての形状を保ちつつ、背後へのサービス動線を確保している。

末廣町店舗住宅と同時代の RC 共同建築の例を探せば、まず関東大震災復興時に東京でつくられたものが挙がる。今川小路共同建築（九段下ビル）（1927（昭和2）年、2012年滅失）、旧東京市営店舗向住宅（1928（昭和3）年、現存）等であるが、これらに比べても台南の例は大規模かつ計画的である。他方、満州の大連では連鎖商店街（1929（昭和4）年、設計宗像周一）が街区単位で形成され、きわめて大規模な建設がなされた。台湾、満州における事例は国内よりも先駆的であった。

林百貨店のリノベーション

林百貨店は、角地の隅切り部を正面として、頂部には特徴的な意匠が施されている。

2015年に改修、再生し、洒落た土産物店、セレクトショップ、飲食店等が入る店舗として、観光客の人気を集めている。改修にあたっては、エレベーター、入口、

屋上、内装などが新設された。古い建物の持つ時間を経た価値が最大限尊重され、現在では用いられない工法等を積極的に「見せる」設計がなされている。5階には街の歴史、建物、設計者を紹介するコーナーが設けられている。屋上にはペントハウスが増設され、かつて屋上にあった神社の痕跡もある。リノベーションで都市再生を果たした成功例として、広く注目を集めている。

台湾では文化資産保存法が2005年に改正され、そこでは「多元文化発揚」が謳われている。中華文化の発揚からの転換ははかられたもので、植民地時代の建造物も遺産として積極的な保存と活用を進める基礎的法制となっている。戦後、日本統治時代の建物を使わざるをえなかった台湾の複雑な歴史を背景としているが、多文化の尊重を掲げる姿勢には敬意を表したい。

回廊の普遍性

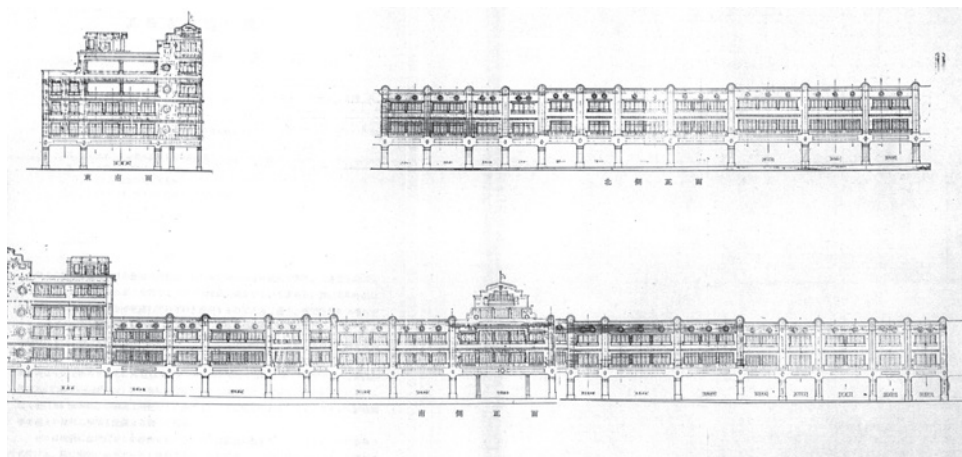
亭仔脚は台湾の都市空間における公共性のベースとなっており、安全な歩行・回遊空間を提供している（とはいえバイク

等に占領されている場合も多々あるが）。亭仔脚に面する店舗が連続的に空間を提供することで通り抜けが可能となり、一事業者にとどまらない協力的な公共性の発露と捉えることができるだろう。また、自動車交通のない歩道であるからこそ、若干の店の商品のあふれ出しも許容され、屋台、オープンカフェ等にも適した空間が形成される。これらが連続的に存在することで、街路に賑わいをもたらす。

考えてみれば、これはイタリアのポルティコなど、世界各地に見られる回廊である。あるいは新潟の雁木、青森のこみせ等にも通じる。亭仔脚そして防火建築帯、防災建築街区は都市の普遍的な姿を示しているのかもしれない。

主要参考文献：

- 郭中端、掘込憲二「台湾の都市計画法と亭仔脚」『日本建築学会学術講演梗概集』1977
- 泉田英雄、黄俊銘「屋根付テラスと連続歩廊の街並み景観について 東南アジアの植民地都市とその建築様式に関する研究 その2」『日本建築学会計画系論文集』No.458, 1994 等
- 西澤泰彦『日本植民地建築論』名古屋大学出版会、2008
- 西川博美、中川理「日本統治期の台湾の地方小都市における亭仔脚の町並みの普及 市区改正計画との関連を中心として」『日本建築学会計画系論文集』No.700, 2014 等
- 梅澤捨次郎「臺南市末廣町店舗住宅建築に就て」『台湾建築会誌』4編6号、1932
- 栢木まどか、伊藤裕久「日本統治期の台南（台湾）における都市構造の変遷と旧末廣町店舗住宅について」『日本建築学会大会学術講演梗概集』2010 等
- 宮畑加奈子「台湾文化資産保存法における歴史的、文化的価値を有する「建築物」概念の変容について 植民統治期の遺物から土地の記憶へ」『広島経済大学研究論集』No.37-4, 2015 等
- 此木駿「台湾の近代化における工手学校卒業生による歴史的建造物の保全と再生」工学院大学大学院修士論文、2017
- 鈴木侑『回廊 KAIRO』中央公論美術出版、2004



末廣町店舗住宅 道路の両側で立面が整えられている
(梅澤捨次郎「臺南市末廣町店舗住宅建築に就て」より転載)



土屋 和男
常葉大学造形学部造形学科 教授

第8回 JIA 東海住宅建築賞 2021 公開審査会報告

さる8月28日に昭和ビル9階の大会議室にて第8回 JIA 東海住宅建築賞 2021 の1次公開審査会が行われました。審査員には名古屋造形大学の学長であり建築家の山本理顕氏、東京芸術大学准教授で建築家の中山英之氏、建築家の島田陽氏の3名をお迎えし審査にあたっていただきました。今年度は2年ぶりの開催ということもあり応募作品は24作品と例年の半数ほどでした。東海住宅建築賞が回を重ねるごとに知名度が上がり、応募していただく時点では既に建築家自身がふるいにかけるため、応募数が減少したかもしれませんが、応募作品は高い水準で思考、制作された住宅がほとんどです。

審査では山本さんがしきりに敷地周辺の情報が少ないことを発言されていました。最近の建築家の考える住宅が内向きになっているのではないかと感じたようです。山本さんの危惧される「内向き」とはどのようなことなのか？中山さんと島田さんはディスカッションをしたいようでしたが、今回は山本さんからその答えはお聞きできないようでした。建築家は住宅設計の手掛かりとしては周辺環境を読み込みますが、建築された住宅が社会にどのような影響を及ぼすのか言及している作品は少ないようです。これからの時代に求められる住宅は建築としての質だけに留まらず、住まい

方の提案も含まれます。発注者としての施主の力量も例年問われていて、住宅は設計者の力だけではできないと改めて感じます。「社会」と「住宅」の関係性の議論は2次現地審査でも続くものと思われます。

新型コロナウイルスの影響は2020年度の開催中止、会場の変更、運営委員の減少など今まで7回の歴史を刻んできた東海住宅建築賞の大きな危機となりました。そのような時代において今回は協賛企業、学生、会員、地元の若手建築家のご協力のもと開催にこぎつけることができました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。尚、2次現地審査は10月23日24日に行われる予定です。



公開審査会場では応募者の方に審査員からの質問に答えていただきました。会場にお越しいただけない応募者の方にはZOOMで参加していただきました。



JIA東海支部事務局で真剣に審査される審査員の3氏。



多くの応募者の方に集まっていただき、審査員から貴重な生の批評を聞くことができました。会場の様子はZOOMにて一般の方へ公開いたしました。

順位	応募者名	事務所名	作品名	作品所在地	第1回投票	第2回投票	第3回投票	第4回投票	第5回投票	第6回投票	第7回投票	第8回投票	第9回投票	第10回投票	第11回投票	第12回投票	第13回投票	第14回投票	第15回投票	第16回投票	第17回投票	第18回投票	第19回投票	第20回投票	第21回投票	第22回投票	第23回投票	第24回投票	
1	藤野博康	藤野博康建築設計事務所	あそとよみうち	福知山市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	河合啓吾	河合啓吾建築設計事務所	SLBH 6	名古屋市	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
3	神永啓吾	TAB	溶ける建築	名古屋市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	外谷真樹	外谷真樹建築設計事務所	多米の家	名古屋市	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
5	中山英之	中山英之建築設計事務所	中島の家	名古屋市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	島田陽	島田陽建築設計事務所	飛騨古川雪またじの屋根	岐阜県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	澤秀俊	澤秀俊設計環境 / SAWADEE	秋元邸	岐阜県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	吉田夏雄	吉田夏雄建築設計事務所	肥田の家	岐阜県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	藤野博康	藤野博康建築設計事務所	あそとよみうち	福知山市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	河合啓吾	河合啓吾建築設計事務所	SLBH 6	名古屋市	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
11	神永啓吾	TAB	溶ける建築	名古屋市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	外谷真樹	外谷真樹建築設計事務所	多米の家	名古屋市	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
13	中山英之	中山英之建築設計事務所	中島の家	名古屋市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	島田陽	島田陽建築設計事務所	飛騨古川雪またじの屋根	岐阜県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	澤秀俊	澤秀俊設計環境 / SAWADEE	秋元邸	岐阜県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	吉田夏雄	吉田夏雄建築設計事務所	肥田の家	岐阜県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17	藤野博康	藤野博康建築設計事務所	あそとよみうち	福知山市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18	河合啓吾	河合啓吾建築設計事務所	SLBH 6	名古屋市	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
19	神永啓吾	TAB	溶ける建築	名古屋市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20	外谷真樹	外谷真樹建築設計事務所	多米の家	名古屋市	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
21	中山英之	中山英之建築設計事務所	中島の家	名古屋市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	島田陽	島田陽建築設計事務所	飛騨古川雪またじの屋根	岐阜県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23	澤秀俊	澤秀俊設計環境 / SAWADEE	秋元邸	岐阜県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24	吉田夏雄	吉田夏雄建築設計事務所	肥田の家	岐阜県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

審査員が投票した作品に対して推薦理由を述べ最終的に6作品に絞られました。

2021 2次現地審査進出作品

- 設計者
 河合啓吾 株式会社 TAB
 浅井裕雄 (有) 裕建築計画
 彦坂昌宏 彦坂昌宏建築設計事務所
 澤秀俊 澤秀俊設計環境 / SAWADEE
 榮家志保 一級建築士事務所 EIKA studio
 吉田夏雄 吉田夏雄建築設計事務所

- 作品名
 「SLBH 6」
 「溶ける建築」
 「多米の家」
 「飛騨古川雪またじの屋根」
 「秋元邸」
 「肥田の家」

吉元 学 (JIA 愛知)
ワークキューブ



広島工業大学准教授、 建築情報学会常任理事の杉田宗さんのご講演を聞いて。

一 電腦設計論壇 #08 杉田 宗氏



杉田 宗氏

7月16日に開催された、zoom ウェビナーを今回も楽しく受講できました。

毎回開催されるこの『電腦設計論壇』は、いろいろ気づかされることもありますし、これからの建築設計業務のあり方を、多角的に考えられる講座だと思っています。

事実、年々建築設計のBIM化、効率化が進んでいるように思いますし、設計へのアルゴリズムの利用なども、普通に行われるようになってきました。いろいろな学校でも、BIM教育が普及してきているように思われ、デジタルネイティブな若い学生は、あまり抵抗なくその導入が進んできているように思います。片や実際の設計業務では、CADは当たり前ではあるものの、BIMの導入はなかなか進まず、CADによる手書き設計の様相は、そのままのようにも見えます。そのためなかなか効率化が計れることなく、いまでも設計は『ブラック』な業界とされています。

ところで、今回のウェビナーに話題を戻しますと、今回の講師である杉田さんをきっかけにして研修委員会の委員長であられる東福さんがライノセラスーグラスホッパーをマスターされたとのことで、かなり影響を与えた方なんだなと思いました。わたしも現在グラスホッパーを勉強していますので、アルゴミックデザインの分野にとっても強い方なんだなと思います。

ライノセラスーグラスホッパーは非常に面白いアプリでして、基本は3D作成ソフトかなと思うのですが非常に多機能で、また他アプリなどとの連携もよく、私が使っているBIMソフトとの連携も非常に巧妙で、実務にも使いやすいソフトですので、マスターしたいと思っておりまして鋭意努力しています。

今回の大きな主題としてアルゴミックデザインの設計への展望という内容がありました。建築業界特に、日本の建築界において、デジタル化はまだまだ遅れがあ

るようにわたしも思っていました。現在導入が進んでいるBIMにおいても、東南アジアの方が早いからです。

以前、ある施主様のお父様が、インドネシアで住宅を取得するにあたり、少し打ち合わせをただけですぐに図面ができてきたと非常に驚き、逆に私たちの設計業務の時間のかかる様子に驚いていました。これは5、6年前の話ですので、海外の方がそういったテクノロジーの導入にあまり壁がなく、すんなり受け入れているのだと今になって思います。逆にいまの日本の状況は、大丈夫なのでしょうが…あまり5、6年前と変わってないような…。

しかしながら、アリのフェロモンのアルゴリズムあたりの話題はちょっと良くわからなくて、自分自身の理解力のなさに少し残念な気持ちになりましたが、いままで手がけられた『かも保育園』の日射取得検討の事例、MC加工の全て違う種類の加工を、アルゴリズムを使ってうまく最適化していたりとかを拝見して、いままで非常に手間暇かかっていた検討を、ある程度コンピューターに任せて、それをうまく利用する手法は今後の建築設計の効率化にも有効だなと思いました。

教育の分野でもかなり斬新な取り組みをされているようで、広島BIMプロジェクトや、広島工業大学での取り組みなど、BIMを利用した業務の効率化への取り組みの素晴らしさや、大学の講義がアナログからデジタルではなく、いきなりグラスホッパーなどのデジタル教育から、逆に手書きの製図や模型の作成を行うなど、非常に興味深く思いました。

BIM教育だけでなく、建物内のメンテナンス（清掃）をBIMデータから行う取り組みも非常に興味深く、高齢化が激しい清掃などの業務を、効率化していくこ

とができるのも、いままでない考え方だと思いました。BIMの活用は今後もっと広がって行くのでしょうか！非常に楽しみです。

以前、確認申請をBIM化し、共通フォーマット化することで都市のバーチャルツイン化をはかり、将来の自動車の自動運転のデータとして利用するなどの話題はよくききますが、今回の清掃のような取り組みだけではなく、他様々な3Dデータの利用をする先がありそうな気がしています。

いろいろな興味深いお話から、広島工業大学の建築教育レベルが本当に高いことが想像できます。そのような環境で学べる学生は、羨ましい限りですね。技術革新など、中国に見劣りし始めた日本において、何か新しいイノベーションが起こることを期待したいものです。

どうしても非効率になりがちな建築設計業務において、あたらしい技術の導入が広がることで、若い人が建築設計活動に効率よく取り組めるようになれば、設計業界のマンパワー不足も含めて、新しい若い人が戻って来てくれるかもしれないと想像したりしています。今後設計者の数も減っていくことが想定されていますので、本格的に考えていただかないと、設計業界は大変なことになってしまうように思うのは私だけでしょうか？

また次回の電腦設計論壇もとても楽しみです。学生の方々にもぜひ受講してほしいです。日々革新している建築設計技術を、私たちも吸収していきたいです。今後も良い企画を、研修委員会さんにはお願いしたいです。

宮坂 英司 (JIA愛知)
愛知地域会 研修室長





2021年4月に行われた展示の様子



STORY TYDE

✓ story



目標

- ・自給多足の自動化
- ・地元に関わる人とお付き合いからの拡張するコミュニティ創生
- ・女性は科学者=ダイバーシティ、グリーンサーキュレーション、アグロフォレストリイ

問題

- ・町の中の切り取られた実験場、近所を巻き込めないことで孤立する
- ・資本的な開発のスピードに住んでいる人の気持ちが取り残されている

「Slowback Life Project」循環する森

東海道新幹線で豊橋駅から車に乗り東へ20分ほど走らせる。

よくある郊外の風景を横切って奥へ奥へ進むと、突然開かれた森が広がる。

車を止めて、この森を探索する。みかんやレモン、栗の木など季節ごとに楽しめる果樹が植っている。

この食べられる森「フードフォレスト」は、変人・科学者・思想家など数々の異名で呼ばれた故人・川合健二さんが、かつて最愛の妻である花子さんとともに暮らしていた場所である。

そしてこの森の中央には、健二さんが設計した自邸「コルゲートハウス」が置いてある。置いてあると表現したのは、この家は基礎がなく、ただ地面に横たわらせている鉄の筒のような形態だからだ。近隣の住人には「ドラム缶の家」と呼ばれているらしい。その名の通り工業製品であるコルゲートパイプを使って作られたこの家は、3-4日ほどなくボルトで組み上げて作られた。家というものは、それほどお金と時間をかけるものではなく、生活の息吹のようにあるべきだという川合夫妻の思いがこの家には表現されている。鉄はいずれ朽ちて土に還る。月日、長い時間の流れを読み解き

設計されたこの庭と家で、自律分散型の循環する暮らしを2人は実践されていた。

工場やビルといったプラントの設備設計を行うエンジニアとして世界中を飛び回っていた無鉄砲な健二さん。対して、花子さんはこの森の開拓者である。彼女はゆっくりと確実に、2人が思い描いていた思想をこの土地におとしこんでいたようだ。スマートフォンがなく遠方の友人とすぐに連絡を取り合うことが困難だった時代に、遠くはニューヨークまで、花子さんは手紙を添えてフードフォレストで取れた果物を詰めた小包を送られていた。その時のやりとりが、時が止まっているようにコルゲートハウスに残されていた大量の手紙から読み取れた。

自給自足ではなく、自給多足

川合夫妻が当時持っていた思想や暮らしの実践は、先行きが見えないこの時代に生きている私たちにとって学びが多い。生きる叡智を身につける場所作りをこの森で再び。目まぐるしい近代のスピードから脱し、じっくりと自然と向き合う時間を過ごしてみませんか？

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言により一般社会では学校や会社に行けなく

なり、2年以上も合わない同僚や断絶したコミュニティとオンラインでしか繋がらない世の中になる。毎晩飲み歩いてきた若者達は皆次々と豊かな暮らしを求め郊外へ移住していく。突然社会との関係性が途切れ、人間力回帰という視点の必要性が求められているなか、川合夫婦から引き継いだこの建物と土地を利用し、40年以上豊橋というまちを見つめてきた建築事務所としてどの様な答えがあるかをプログラムに折り込み社会への恩返しを行いながら、この詩的で質朴的、情緒的風景を紡ぎ、大切な友人達やご近所に作物を分け与えてきたご夫婦の暮らしの集大成を世界に紹介するべく農業体験と地域特性の発信地としてコミュニティ施設を作ります。

■オープン：2022年1月予定

■INSTAGRAM

ID：SLOW_BACK_LIFE

公式Instagramでこの地で生産されていく商品販売情報と開発段階のワークショップ情報を発信していきます。みなさまも是非ご参加ください。

富田 正行 (JIA 愛知)
有限会社 エム・プロダクツ



2022年度 東海支部役員選挙の告示

2021年10月1日

(公社) 日本建築家協会東海支部選挙管理委員会

委員長 : 矢田義典

委員 : 大瀧繁巳、川崎貴覚、
見寺昭彦、八木紀彰

「東海支部役員等選出規則」に基づき、2022年度東海支部役員選挙について次のように告示します。

記

◎2022年度東海支部役員選挙で選出する役員の数

幹事 静岡地域会 2名
愛知地域会 5名
岐阜地域会 2名
三重地域会 2名
監査 2名

※なお幹事の選出は各地域会単位とし、選出方法は各地域会の定めによります。(東海支部役員等選出規則第3条2)

◎選挙日程

第1回選挙管理委員会	2021年 9月10日 (金) 15:30
◇第1回告示	2021年10月 1日 (金) (ARCHITECT2021年10月号)
立候補・届出締切り	2021年11月10日 (水) (10:00 事務局受付)
第2回選挙管理委員会	2021年11月15日 (月) 15:00
◇第2回告示	2021年11月18日 (木) (投票用紙とともに郵送)
投票期日	2021年12月10日 (金) (投票用紙事務局着分有効)
第3回選挙管理委員会	2021年12月13日 (月) 13:00
選挙結果報告 支部長あて	2021年12月13日 (月)
選挙結果報告	2021年12月14日 (火)
選挙結果の発表	(ARCHITECT2022年2月号)

以上

(注) 立候補者数が定数と同数の場合は第2回告示、投票を行わず日程を一部繰り上げる。

2022年度 東海支部愛知地域会役員選挙の告示

2021年10月1日

(公社) 日本建築家協会東海支部愛知地域会選挙管理委員会

委員長 : 藤巻志伸

委員 : 塚本隆典、花井秀哲、
藤岡陽子、眞木啓彰

「愛知地域会役員等選出細則」に基づき、2022年度愛知地域会役員選挙について次のように告示します。

記

◎2022年度東海支部愛知地域会役員選挙で選出する役員の数

地域会長・副地域会長候補 5名
地域会監査 2名

※なお愛知地域会規則第7条1により、選出された地域会長・副地域会長候補は東海支部幹事を兼任します。

◎選挙日程

第1回選挙管理委員会	2021年 9月10日 (金) 15:00
◇第1回告示	2021年10月 1日 (金) (ARCHITECT2021年10月号)
立候補・届出締切り	2021年11月10日 (水) (10:00 事務局受付)
第2回選挙管理委員会	2021年11月15日 (月) 14:00
◇第2回告示	2021年11月18日 (木) (投票用紙とともに郵送)
投票期日	2021年12月10日 (金) (投票用紙事務局着分有効)
第3回選挙管理委員会	2021年12月13日 (月) 14:00
選挙結果報告 地域会長あて	2021年12月13日 (月)
選挙結果の発表	(ARCHITECT2022年2月号)

以上

(注) 立候補者数が定数と同数の場合は第2回告示、投票を行わず日程を一部繰り上げる。



図1:三行中空型

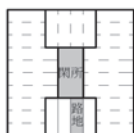


図2:キネ型



図3

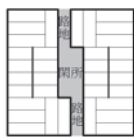


図4



1601年(慶長15年)、徳川家康は名古屋城下を建設するにあたり、現在の外堀通りの南に基盤割の街区をつくり、このとき、道路に面して町家や店舗が建てられたため、街区の中央に「会所」(名古屋では訛って「閑所」と呼んでいた)という空き地ができ、そこには寺院が建てられることが多かった。江戸では街区が名古屋より一回り大きく図1の三行中空型に図割されている。名古屋は図2のキネ型をしている。

地図上に現存する神社・寺院落とし込んでみました。

母(91歳)がこの街区(本町)で生ま

れたので「会所(閑所)」について聞いてみました。

- ・『かんしょ』と呼んでいましたが『閑所』だと思っていました。
- ・神社や寺が建っており幼いころはそこでよく遊び、父親とお参りにもよく行きました。図3
- ・医院(内科や眼科)が建っていたところもありました。図3
- ・閑所の左右(東西)の敷地はそれぞれ左右(東西)に二分され閑所側が玄関の家もありました。図4
- ・北側にも路地があり閑所を通して通り抜

けできるところもありました。図4懐かしそうに当時のことを話してくれました。

現在、多くの街区でマンション等の再開発が進められていますが、まちの『タカラ』である『会所と路地』の活用が望まれます。

参考文献:名古屋を古地図で歩く本
KAWADE 夢文庫 河出書房新社
プロジェクト紀行 開府 名古屋の都市づくり
一家康の考えたこと一 池田誠一 著
愛知千年企業 江戸時代編
基盤割商人の歴史と町名 北見昌朗 著

塚本 隆典 (JIA 愛知)
塚本建築設計事務所



編集後記

● 電脳設計論のレポートは大変刺激的で、毎回興味深い内容です。新しい技術によって設計の方法が変化したり、これまでできなかったことができるようになるなど新しい経験の兆しに期待が膨らむからです。そして同時に、そもそも設計って何だろう、という問いが頭を巡ります。AI搭載のロボット開発そのものが、人間とは何かを振り返るきっかけになっていると聞きます。それと同じように、BIMなどの技術が作業の効率化や無駄な作業の排除により本来の設計業務に向かう時間を増やしてくれるだけでなく、何よりも人間の頭脳では発想不能な構造形式や形態、施工方法、マネジメントなどに展開するのかどうか、楽しみが尽きません。また、大学の中にはデジタ

ルツールから導入してアナログを学ぶというカリキュラムをすでに実施していることを知るにつけ、設計業務の変革は時間の問題のようです。(鈴木賢一)

● コロナ猛威や天候不順で外部活動がままならぬ折、本号掲載記事の随所に頼もしい敬服と共感を覚えて幸甚でした。順不同ですが、「保存情報」の『会所と路地』の穏やかな見聞にまず釘付けで、自身の回想とも重ねました。特に錦二丁目「長者町」の16街区は勤務地直近で馴染み深く、まちの再構築に想いを馳せ非常勤講師の計画課題として学生さんにも投げかけ、初回トリエンナーレ時にJIA愛知の市井活動拠点としました。各カレッジ毎のクアドラングル+アーケードのキャンパス構成や、本号連載の台湾・亭仔脚のまち形成にも通じます。「川合健二郎」の循環する森への悠久提言や

白鳥公園・池泉回遊式庭園の渾身の見学会報告・・・、このどこか鬱々とした日々に一風の救世感を残してくれました。脈々の我がが活字文化、いいですね。(鈴木利明)

ARCHITECT

第 397号

発行日 2021.10.1 (毎月1回発行)
定価 380円(税込み)
発行責任者 水野豊秋
編集責任者 川本直義
編集 東海支部会報委員会
愛知地域会ブリテン委員会
株式会社イヅミ内
ARCHITECT 編集部
岡崎市明大寺町荒井10番地
TEL (0564)21-2657 FAX 26-1792
発行所 (公社)日本建築家協会東海支部
名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル
TEL (052)263-4636 FAX 251-8495
E-Mail: shibu@jia-tokai.org
http://www.jia-tokai.org/

白鳥庭園見学会報告

去る7月16日、日本建築家協会近畿支部 大阪建築部会主催の「白鳥庭園（熱田神宮西）の森を探訪」に参加してきました。

講師は、「白鳥庭園設計者、風景造園家、野生のランドスケープデザイナー」の吉村元男氏。当日は、梅雨明けを予感させるほどの晴天となりました。参加者は定員15名を超えて19名で盛況でした。

個人的には白鳥庭園は過去2回見学経験がありますが、コロナ禍の影響で他団体も含めてZoomでのセミナー企画がほとんどで、なにか物足りなさを感じていたため、リアル見学会に積極的に参加いたしました。都合で5月の開園30周年記念イベントに参加できなかったことも、参加動機の一つです。

白鳥庭園は中部地方の地形をモチーフとし、御嶽山から伊勢湾まで木曾川の流域をめぐる自然風景式日本庭園（池泉回遊式庭園）となっています。時系列に沿って見学コースを案内しますと、集合場所が白鳥庭園北門から正門に変わり、見学は伊勢湾側（清羽亭、宮の渡し広場）からのスタートでした。清羽亭は中村昌生氏の設計、外観は白鳥が舞い降りる姿をイメージし、庭園と建築の美しい調和を見せています。京都の数寄屋大工と尾張大工とが造り上げた本格的数寄屋建築、茶会のできる施設で水に浮遊する茶室は珍しいとのこと。次に汐入亭を右手に、木曾三川風景を左手に見ながら出会橋を渡り豊臣橋、くすのき橋を経て北門に着きました。講師の吉村先生の説明では島から島へ橋があるのは、池泉回遊式庭園の特徴で、進むことも戻ることも可能なようになっているのが西洋式庭園との相違点だということでした。北門から游濱亭を経て水琴窟のある汐見四阿で小休憩、傘亭に着く頃には山側（滝側）に近くなってきた影響か、そよ風も涼しさを増してきたように感じました。溪流を飛び石伝いに渡り雌滝を見ながら木曾橋を過ぎるころには、実際の渓谷を登っているように



正門にて集合風景



吉村先生現地レクチャー風景（汐見四阿付近）



巨岩から水しぶきをあげる雄滝風景



吉村先生レクチャーと質疑応答風景（清羽亭立礼席棟にて）

感じ、自分が都市の中にいることを忘れるほど自然に近い風景でした。

溪流に沿って歩き滝見四阿で小休憩、眼前に広がる築山（御嶽山）を背景に巨岩から水しぶきをあげる雄滝は圧巻でした。

その後、清羽亭に戻って立礼席棟にて吉村先生のレクチャーと質疑応答が行われました。レクチャー資料はレジメ、process（1990年発行、吉村和男先生著）、以上配布、「都市は野生でよみがえる」（1986年発行、吉村和男先生著）、回覧資料。吉村先生のレクチャーで印象深かったのは、「公共空間として市民に開かれた回遊式日本庭園を造りたい、都市に野生の庭（生物多様性に富んだ庭）を人工的に造りたい」というメッセージでした。参加者からの質疑回答として、白鳥公園の設計では模型は作らず造園イメージを基に、庭石の選定もすべて現場合わせで決めて工事を進めたとのことでした。

個人的には、水の流れの設計に興味が高まりました。上流の築山（御嶽山）雄滝

から溪流、雌滝、木曾川、伊勢湾風景へと下流になっていくヒエラルキーの演出効果の巧みさに感心しました。すべて現場合わせでレベル調整、水を流して試せるのは全体完成後、手直しはなかったとのことなので、白鳥庭園ができたのは庭師の方々の経験則に裏打ちされた確かな創造力の賜物だと思いました。白鳥庭園管理事務所の川島氏によると、庭園来場者は例年15万人/年、コロナ禍の昨年は10万人/年とのことでした。百聞は一見に如かず、白鳥庭園の森の探訪をお勧めいたします。

最後に、「白鳥庭園の森を探訪」を主催された日本建築家協会近畿支部 大阪建築部会の皆様に感謝申し上げます。

島山 成好 (JIA 愛知)

島山都市建築事務所

